瀬谷中だより

令和６年１月16日

<学校教育目標>社会で飛躍する子どもたちの育成

- ○ **自ら学ぶ力の育成と基礎学力の定着** 〔知〕
- ○ **他者を思いやり、礼儀や規律を重んじる態度の育成** 〔徳〕
- ○ **生命を尊ぶ健康な心と体の育成** 〔体〕
- ○ **社会に貢献し、様々な人と関わり合う態度の育成** 〔公・開〕

発　行　横浜市立瀬谷中学校
校　長　市　村　美　穂　子
住　所　瀬谷区中央５－４１
TEL 301-0096　FAX　301-0099

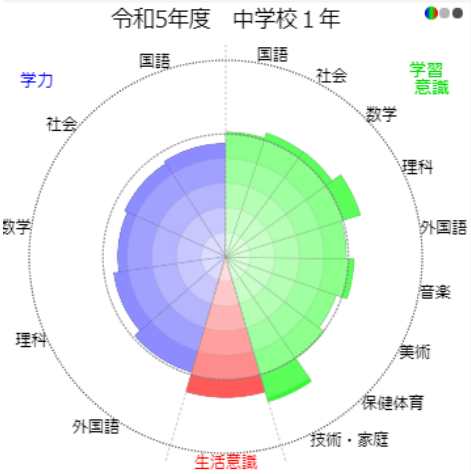
令和５年度　横浜市学力・学習状況調査　瀬谷中学校の結果と分析

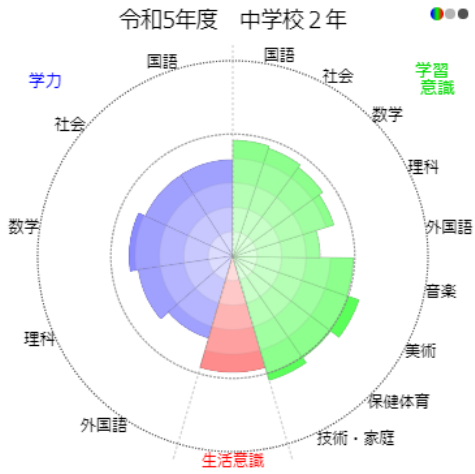
１．学力向上の取組と教科に関する調査結果の概要と改善のための手立て

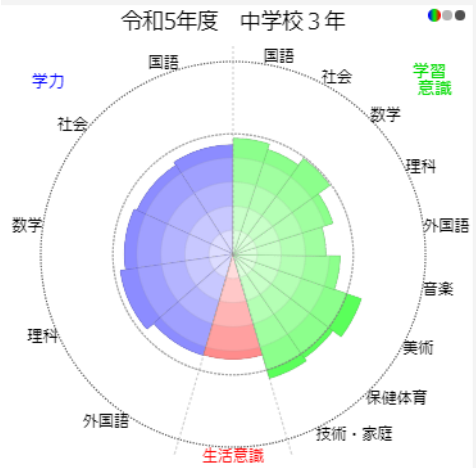
＜教科別平均正答率＞

	中1							中2						
	国語		社会	数学		理科	外国語	国語		社会	数学		理科	外国語
学校名	正答率	学力を伸ばした生徒の割合	正答率	正答率	学力を伸ばした生徒の割合	正答率	正答率	正答率	学力を伸ばした生徒の割合	正答率	正答率	学力を伸ばした生徒の割合	正答率	正答率
市全体	63.7%	73.4%	69.7%	54.4%	54.6%	64.9%	87.6%	67.9%	71.3%	60.8%	56.3%	65.4%	65.3%	74.0%
瀬谷中	61.9%	68.1%	67.1%	50.6%	54.5%	63.2%	86.8%	62.2%	67.1%	54.5%	51.5%	67.6%	59.6%	66.9%

	中3						
	国語		社会	数学		理科	外国語
学校名	正答率	学力を伸ばした生徒の割合	正答率	正答率	学力を伸ばした生徒の割合	正答率	正答率
市全体	68.9%	70.9%	60.0%	62.4%	67.5%	59.5%	69.4%
瀬谷中	66.3%	72.8%	56.5%	59.2%	73.5%	57.9%	65.2%







＜国　語＞

「書くこと」の設問で、**「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように、資料の中から適切な情報を取り出し、根拠を明確にして書く」**ことについて、課題が見られた。今後、「書くこと」の授業の中で、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認したり、考えを支える根拠として示す事例等が適切かどうか検討したりする学習過程を充実させていく。３年生は、学力を伸ばした生徒の割合が、市全体より多かった。

＜社　会＞

全般的に市全体の平均正答率を下回っている。**「複数の資料から必要な情報を読み取って答える」**問題に苦手意識が強いことが分かった。今後は、授業の中で複数の資料を使って様々な情報を読み取る機会を増やし、「資料が何を示したいのか」を把握する力を付けていく。また、考える力の基礎・基本となる知識・技能の定着や、設問が何を問うているのかを適確に捉える力の向上にも、引き続き力を入れていきたい。

＜数　学＞

全般的に市全体の平均正答率を下回っている。単元ごとに見ると、**「一元一次方程式の計算、統計の読み取り」**に関する設問に、特に課題が見られた。一方で、**「平面図形や空間図形」**においては、市全体の平均正答率を上回る設問も見られた。図形の単元に興味をもって取り組めるよう授業の導入等を工夫してきた成果が表れたと思われる。今後は、式の計算について、問題を解く機会を引き続き充実させながら、基礎・基本となる知識・技能の定着に力を入れていきたい。３年生は、学力を伸ばした生徒の割合が、市全体より多かった。

＜理　科＞

全般的に市全体の平均正答率を下回っている。特に、**「自然の事物・事象の中に問題を見いだし、その問題解決の方法を科学的に説明する」**設問に課題が見られた。一方で、**「実験・観察の技能」**に関しては、市全体の平均正答率を上回る設問も見られた。今後は、実験を通して、実験の技能を身に付けるだけでなく、実際に起こった事象について、自分の言葉で説明し、表現させる力を身に付けさせていきたい。そのために、授業の中で、実験から得られた結果を分析して解釈する場面を多く設定していく。

＜英　語＞

全般的に市全体の平均正答率を下回っている。特に「記述式問題」において、自分の考えや思いを「書くこと」に課題が見られた。また、**「英文を読んで内容を読み解く問題」**においても、平均正答率が低くなっている。今後は、コミュニケーション活動をより一層多く取り入れるとともに、英語をたくさん聞くなど、インプットの量を増やす授業を行っていく。更に、「話す」だけでなく**「書いて表現する力」**も高めていきたい。

２．質問紙調査の結果の概要と改善のための手立て

＜学習習慣＞

質問紙の結果から、**「疑問や課題を解決しようとする意識が高く、学校での学習には意欲的に取り組んでいること」**が伺えた。一方で、**「家庭での学習時間」**は、１・２年生において市全体の平均より短く、学習への主体的な取組に課題が見られた。また、**「身に付けた知識を日常生活の中で関連付けて使うこと」**に課題が見られた。今後は、各教科等の授業の中で、学習内容と実際の生活との関連を図ることを通して、身に付けた力が生活にどのように生きるのか実感できるよう指導していきたい。

＜生活習慣＞

市全体の平均と比べ、**「１日の睡眠時間は短く、ゲームをしている時間が長い」**ことが分かった。睡眠時間を十分に取ることが、食事のリズムや学習意欲、学習の定着にも大きく関わっていることなど、生活習慣を整えることの大切さを、より一層伝えていきたい。一方で、**「地域の行事に参加している生徒や、身体を動かすのが好きな生徒が多い」**ことも分かった。今後は、生徒会活動や学級活動等の特別活動をより一層充実させ、瀬谷中生の長所を伸ばし、他の力とともに高められるよう指導していきたい。

＜生活意識＞

学年が上がるにつれて生活意識が市の平均を下回っていく傾向が見られた。特に**「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりしているか」**という問いについては、市全体を下回る結果となった。今後は、教科の授業や学級活動で話し合い活動を行う機会を増やし、話し合う内容を充実させる中で、他者への理解を深めることができるよう指導していきたい。